

医師部門

受賞者： いしかわ やすまさ 石川 育成 (84歳)
岩手県医師会 会長



石川氏は岩手医科大学を卒業後、昭和43年「石川外科麻酔科クリニック」を開業し、約50年にわたり地域住民の健康保持にまい進し、地域医療に多大なる貢献を果たしてきた。

臨床は元より、岩手県医師会では平成4年から今日まで23年間にわたり岩手県医師会会長としてリーダーシップを発揮してきた。東日本大震災の際は、被災直後に岩手県医師会に災害対策本部を立ち上げ、8月には市街地が全壊した陸前高田市に県内外の医師が交代で診療を行う

「高田診療所」を開設し、市民の心身のケアに尽力した。未曾有の震災を経験し、医師会では新たな街づくりに関して医療的知見から病院の立地や施設要件などの提言を行っている。

日本医師会では、各種委員会の座長など多くの要職を歴任し、現在も理事として地域医療の豊富な知見を元に理事会の議論を深化させている。また平成10年から日本医師会代議員会副議長、ならびに議長を計12年間務め、日本医師会の最高意思決定機関である代議員会の的確な議事進行と代議員会における議論を活性化した功績は大きい。また、自浄作用活性化委員会委員長として、医師の不正行為や反省なき医療事故多発者の根絶を目指し会員の意識改革を促し最終答申を提出した。この答申をベースに各都道府県・郡市区医師会レベルで具体的な対策を促した。昨今医療の質の確保は至上命題になっており、日本医師会から上梓された「医師の職業倫理指針」や医師生涯教育と併せて自浄作用を啓発していく必要性を講じている。

推薦者： 横倉 義武 公益社団法人日本医師会 会長